

# ネパールの国勢調査

特定非営利活動法人ミランクラブジャパン  
理事長 マナンダール マダブ ナラエン

ネパール政府は今年 9 月に国勢調査の結果を発表した。政府が国勢調査を行い始めたのは 1911 年(当時の人口 5,638,749 人)からである。その後 1952 年(人口 8,256,625 人)国際基準に基づいて行い始めた。コンピュータ計算機を導入し、正確な調査統計を取りまとめたのは 1971 年(総人口 11,555,983 人)である。10 年に一度行う調査で、前回は 2001 年人口は 23,151,423 人であったが、今年の調査では約 1.4 倍増で 26,620,809 人となった。この増比率でネパールの人口は世界(225 カ国)ランキングで前回の 60 位から 42 位になった。

今回の調査で、男女それぞれの人口は 12,927,431 人(48.56%)と 13,693,378 人(51.44%)であった。前回の調査では男性 99.8 人に対し女性は 100 人で、ほぼ同じ男女比だったのに対し、今回は男性 94.41 人に対し女性は 100 人と差が出た。この結果から見ると女性の人口は増えていることになる。男尊女卑の国では教育を受ける機会が少ない女性が増えることになる。これを解決するためには貧困からの救済、男女平等社会の実現、教育の水準を上げる等を行っていく必要がある。

ネパール連邦民主共和国は 75 郡に分布されている。この中で人口の多い郡と言えばカトマンズ郡で人口は 1,740,977 人(全人口の 6.54%)である。そして最も小さい郡と言えば、西部の極地にあるフムラ郡で人口はたったの 51,008 人(0.19%)である。この隔たりがますます広がりつつある。フムラ郡は全体的に遅れており、住民の識字率も他郡から比べると大変低い。

ネパールは海拔によって 3 分割されている。北部の山岳地帯(4,000m~8,848m)、中部の丘陵地帯(800m~4,000m)そして南部のタライ平野地帯(70m~800m)である。今回の調査では最も人口が多いのはタライ地帯で、前回の調査と比べて 19.07%増で人口は 50.15% が住んでいる。同じく、

丘陵地帯は約 11.94%で増 43.1%と山岳地帯は 6.37%増で 6.75%人口である。なお、世帯数は約 566 万棟である。

ネパールの面積は世界 64 番目で、人口は 41 番目である。山国のネパールの面積は日本の北海道の 2 倍程度だが人口は多く、そのため人口密度も世界の 62 番目になっている。前回 1 km<sup>2</sup> 当たり 157 人だったのに対し、今回は 181 人となった。また最も多かったのはカトマンズ市で 4408 人/km<sup>2</sup> である。

カトマンズ市は首都ということもあって人口は 1,006,656 人と多く、それに続くのはポカラ市、ラリトプール市、ピラートナガル市、市では最も少ないのはドゥンディケールで人口は 16,408 人であった。カトマンズ市の人口は、2001 年の調査で総人口の 14%だったが今回は 17%に達した。国のライフラインが整わない現状にもかかわらず、この 10 年間の急増で人口密度は 4,408/km<sup>2</sup> になっている。他の都市部も同様に人口増の傾向にある。

都会の人口増には様々な理由がある。特に挙げられる理由には、政情不安が約 15 年間続き、地方の治安悪化によるもの。また商工業といったものが極めて少なく、安全を脅かされている村々から多くの人々が町に流れてきた。この 10 数年間の間にも貧富の差が広がり、地方から多くの人々が職を求めて都市に流れている。

最近ではネパールの都市部だけに留まらず海外へも出稼ぎに出る。西のマナン地方の人口は以前の三分の一に減った。統計によると約 20 万人のネパール人が国外在住となっているが、実際のところは、その倍であると言われる。その 9 割以上は出稼ぎである。前回の調査(7 万人余り)からは約 3 倍弱増えている。出稼ぎ先は中東が多い。日本への希望も多いが日本側の受け入れ体制は整っていない。韓国とは協定が結ばれ、6,000 人の受け入れが決まり、カトマンズでは韓国語ブームになっているほどである。